

根頭がんしゅ状症状調査

外観診断

茶山園地の全サクラ類158本対象に下記内容にて調査を行った。

【調査内容】

- ・幹周
- ・根元、幹部のがんしゅ状症状
- ・根元、幹部のシカ害
- ・その他、キノコや枝枯れ等

病理検査

根頭がんしゅ病の原因菌である *Agrobacterium tumefaciens* の検出に向け、現地のがんしゅ状の部位から検体を採取し、現在分析を行っている。

今後の可能性

原因菌の検出に適した検体の採取時期や進行状況、部位については、知見が少なく、手探りで進める必要がある。  
今後、試験的に掘削した根系から検体採取を行うことも考えられる。

調査速報

- ①158本のうち、約2/3の根元にがんしゅ状の症状や疑いがみられた。
- ②症状がみられたサクラ類は、大きな偏りなく園地内の全体に分布している。
- ③ナラノヤエザクラやナラノココノエザクラ、その他の樹種・品種ごとによる症状や程度の割合に違いは見られない。
- ④シカの食害跡はわずかであり、食害跡から原因菌が侵入し、園地内に拡大した可能性は低い。
- ⑤がんしゅ状部位にコスカシバの痕跡が多くみられる箇所もあり、他の原因(微生物、傷、ストレスなどの単体あるいは複合要因)の可能性は現時点で否定できない。

進捗状況

- ・把握調査では、根頭がんしゅ病状の症状が多くみられたものの、現時点では他の要因も可能性として残った。
- ・今後、病理検査結果と合わせて症状の要因を検討する。